神戸より

村山生

編輯長足下　筆硯益御清適の條御喜申上げます。

過般の震火災は前古未曾有の大災害にて　當面の救護を始め復興計畫のため御配意の程御察申上げます。本誌も一時休刊の止むなきに至つて居りましたが急速に復興されまして新年號として第六卷第一號の發行を見るに至りました事は誠に慶賀の至にて足下の御努力に對し感謝の意を表します。

編輯長足下　本會の兵庫縣支部會員は今や九百名を超過し陽春の候迄には少くも千二三百名に達せしめ三四月の交を期し盛大なる發會式を擧け大いに路政の爲め氣勢を揚げ度と存じて居ります其の節には會長閣下始め役員諸氏の御臨場を得たいと存しますから可然御計ひの程御願致して置きます。

編輯長足下　阪神間大國道は道路上の軌道敷設も特許されまして幅員も十五間に確定し工費は軌道經營者の負擔するものを合し本縣の分にて千參百萬圓に上り之に大阪府の分を合すれば貳千萬圓を超過する大事業であります。一昨年來工事に着して居りましたが未だ起工式を擧げて居りませんでしたので十二月九日に一昨々年着手致しました武庫川改修第一期工事の竣功式と同第二期工事の起工式を合せて擧行致しました、式場は改修就りし武庫川左岸の高水敷にて大國道の横過する地點を撰み清楚なる祭壇を設け神式にて官幣大社廣田神社高階宮司齋主の下に嚴に擧式され式後參百坪の大天幕の中にて宴會を開きました席上平塚知事の式辭、三大工事實施の任に當る西宮工營所長溝口技師の工事報告後藤內務大臣（伊藤道路課長代讀）、有吉朝鮮總督府政務總監兩閣下、山脇千葉新舊兩縣會議長石橋神戸市長、安達武庫郡長諸氏の祝辭の後開宴致しました、撤宴後對岸なる清松白砂の地に設けたる沿道沿川市町村の協賛の寄附に成る模擬店を開き來賓一同は之に移り歡聲の中に終了する事を得ました、此日は初冬の天高く氣澄み小春日和の暖かく來賓六百餘名に達し殊に內務省よりは大臣代理として伊藤道路課長臨席され又前々知事たりし有吉朝鮮總督府政務總監閣下の臨席されました事は擧式に一大光彩を添へ感謝して居ります、尙式前式後に武庫川工事は數臺の自動車にて左右の堤防を上下し國道工事は尼ヶ崎方面と西宮方面とに二臺の工事用汽罐車に座席を連結して來賓の工事視察に便し又近鄕近在よりは此の盛典を見んとて集まれる老若男女はさしもに廣き武庫川の高水敷を埋めん計りにて盛會を極めました。

編輯長足下　阪神大國道は斯の如くにして起工いたしました二年餘の後には此の坦々たる大道路は竣功し今日まで最

も不便を極めて居りました阪神間は一躍して全國々道中最も便利なる地位を占むる事となります、此の事業に續き神戸市明石市間の國道は大正十一年度より四ケ年の繼續事業として縣會の決議を了へて居りますが財政の都合上繼續年期三箇年延長の必要が起りまして目下縣會に提案して居ります、此の神明國道は阪神間の如く一定の幅員ではありません地勢に依り最狹七間八分最高十四間とし種々の斷面を作る事になつて居ります、此の縣にて改築する阪神、神明兩國道の中間は神戸市にて都市計畫事業と共に改築する事になつて居ります。

神戸市では阪神國道より神明國道に連接すへき市内の幹線は路線も計畫も略定まつて居りますが全部の竣成には多少の日子を要しますが現在で最も困難を感して居るのは兵庫の新湊川以西でありますから此處より須磨驛前までは市の電車軌道第三期線を幅員十五間に築造し國道の出來上るまでこれに依つて交通を緩和し須磨以西は神明國道の改築點まで續いて築造する事に計畫して居りまして此の軌道第三期線は一日も早く築造したいと急いで居りますが容易に起債の認可が得られないので焦慮して居ります我々も其起債認可の一日も早く工事に着手し得られん事を祈つて居ります。

編輯長足下、兵庫縣では目下通常縣會を開いて居ります提案中の十三年度の道路費の豫算は

聯帶費

經常部	道路橋梁費	三五、六三七圓
同	道路職員費	一一、九四二
臨時部	道路橋梁費	一〇、九〇五
同	同 繼續費	一〇、〇〇〇
計		六八、四八四

郡部費

經常部	道路橋梁費	八一二、二〇七
同	道路職員費	一四三、一〇二
臨時部	道路橋梁費	八七〇、一八一
同	同 繼續費	一七二、三八二
計		一、九九七、八七二
合計		二、〇六六、三五六

であります之に當年度豫算額の外に前年度よりの繰越により十三年度にて施行すべき阪神國道改修費三百九拾六萬圓神明國道改修費五拾五萬六千圓を加へますと道路に關する費用總額六百五拾八萬圓に上ります。此外土木課にて主管する治水堤防費、港灣費、土砂杆止費、土木職員費及縣營水電工事費の十三年度豫算貳百七拾參萬圓之に縣營水電工事費の繰越にて實行すへき百貳拾萬圓を加へ四百九拾參萬圓にして道路費を合し千百五拾壹萬圓の事業執行を要する譯で本課の事務も相當多忙なる事と存して居ります。右御たより申上げます。

終りに臨み編輯長足下の御健康を祝します。